

世界報道写真展

2016

9.3 SAT
|
10.23 SUN



東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで但し9月9日・10日は21:00)入館は閉館の30分前まで
休館日：毎週月曜日(9月19日開館、翌20日休館/10月10日開館、翌11日休館)
観覧料：一般800(640)円/学生600(480)円/中高生・65歳以上400(320)円

小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料。第3水曜日は65歳以上無料。※()は前売り・20名以上の団体料金 ※前売り期間は9月2日まで
【チケットはセブン-イレブン(店内マルチコピー機「セブンチケット」) 公演名：世界報道写真展2016 東京開催】でお買い求めいただけます。東京都写真美術館では当日券のみ販売します。】

主催：世界報道写真財団、朝日新聞社 共催：東京都写真美術館 後援：オランダ王国大使館、公益社団法人日本写真協会、公益社団法人日本写真家協会、全日本写真連盟
協賛：キャンノンマーケティングジャパン株式会社 お問い合わせ：東京都写真美術館 TEL.03-3280-0099

【公式HP】<http://www.asahi.com/event/wpph/> 世界報道写真展2016 検索 【公式Twitter】世界報道写真展(@wppjapan)

世界報道写真大賞
スポットニュースの部 単写真1位

セルビアとハンガリーの国境を越えようとするシリア難民の男性と子ども。国境の有刺鉄線付きフェンスができあがる前に、ハンガリー側へ渡ろうとする群衆の中にいた。
ウォーレン・リチャードソン(オーストラリア)
2015年8月28日 レスケリンガリー(南部)

リニューアル・オープン記念展

地下1階展示室 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

世界報道写真展

2016

沈黙が語る瞬間

オランダで毎年開かれる「世界報道写真コンテスト」。

今年は、世界各地の6千人近いフォトグラファーが8万点を超える作品を応募。その中から選ばれた大賞など約150点の入賞作品を紹介する「世界報道写真展」は、世界中でのべ350万人を動員する大規模な写真展です。今年の大賞は、警備隊に見つからないようフラッシュを使用できない月明かりの下、セルビアとハンガリーの国境を越えようとする難民の男性と子どもを撮影。写真からは、国境の有刺鉄線付きのフェンスができあがる前の緊迫した様子が伝わってきます。世界を駆け巡ったニュースや現代社会が抱える問題、スポーツの決定的瞬間など、同じ時代を生きた人たちの、普段目にすることが少ない現実を写真から知ることのできる貴重な展覧会です。

今年の東京展はリニューアル・オープン後の東京都写真美術館(恵比寿)で9月3日から開催します。

◎人々の部 組写真1位

1986年4月26日、チェルノブイリ原子力発電所で、非常に大きな原子力事故が起きた。事故からわずか5ヶ月後、チェルノブイリから南に100キロ程の町キエフで、少女が生まれた。少女はこの悲劇の被害者の一人となった。人知れず生きる少女の30年を追った。

小原一真(日本) 2015年6月30日
キエフ(ウクライナ)



◎スポットニュースの部 単写真2位

仏週刊新聞「シャルリー・エブド」の襲撃に始まり、首都パリを襲った一連の事件後に起きた、反テロを訴えるデモ風景。
コレンティン・フォーレン(フランス) 2015年1月11日 パリ(フランス)



◎現代社会の問題の部 単写真2位

自宅の隣にスーダン政府のアントノフ機による爆弾投下があり、7歳のアダム・アブデルは大きな火傷を負った。

エイドリアン・オーネシアン(米国) 2015年2月27日 中部ダルフル州(スーダン)



◎日常生活の部 単写真1位

石炭火力発電所の近隣で三輪の車を引く男性。石炭燃料発電へ依存してきた歴史が、中国を世界の二酸化炭素(CO2)総排出量の約3分の1を占める国にした。科学者や環境問題専門家は、有害汚染物質は地球温暖化を引き起こす第一の要因だと指摘する。

クビン・フレイヤー(カナダ、Getty Images)
2015年11月26日 山西省(中国)



◎人々の部 単写真1位

セルビア・ブレシェボの難民キャンプで難民申請の登録を待つ雨合羽をかぶった少女。

マティック・ソーマン(スロベニア共和国)
2015年10月7日 セルビア共和国

EVENT

「人々の部」組写真1位受賞 小原一真トークイベント

～ フォトジャーナリズムは～
～ 時代にどう向き合うのか～

9月11日(日) 14:00～15:30 東京都写真美術館内1Fスタジオ 定員:50名

申込不要(当日10時より整理券を配布します) 聴講無料

※世界報道写真展2016の入場券(半券可)が必要です。

ヨーロッパの出版媒体を中心に活動し、昨年はロンドン芸術大学のフォトジャーナリズム修士課程で学んだ小原一真氏。複雑で混沌とした世の中、場合によっては、その時間、空間にすらアクセスできない状況で、写真家は何をどう可視化し伝えて行くのか。自身の作品の紹介を行いながら、欧米で行われているフォトジャーナリズム、ドキュメンタリーフォトグラフィーの挑戦を紹介します。

フォトドキュメンタリー・ワークショップ

講師：Q. サカマキ(写真家「世界報道写真展2007」受賞者)
外山俊樹(朝日新聞社映像報道部)

9月17日(土)～19日(月・祝) 3日間連続 定員:20名

事前申込制 参加費:¥20,000

詳細は東京都写真美術館ホームページ www.topmuseum.jp をご確認ください。

東京都写真美術館は、21世紀のフォトドキュメンタリー／フォトジャーナリズムについて実践的な方法を考えるワークショップを開催いたします。フォトドキュメンタリーの最前線で活躍する講師を迎え、レクチャー、ポートフォリオ・レビュー、クイック・ヒット・エッセイ制作を3日間で行います。国内では数少ないフォトドキュメンタリー／フォトジャーナリズムの現場を学べるプログラムです。

至 渋谷 東口 動く通路 恵比寿ガーデンプレイス
JR恵比寿駅 日比谷線恵比寿駅 1番出口 TOP MUSEUM

JR恵比寿駅より徒歩約7分、
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
当館には専用の駐車場はございません。
お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
東京都写真美術館 TEL.03-3280-0099 www.topmuseum.jp

TOP MUSEUM



Canon

世界報道写真財団のワールドスポンサーはキャンノン、
ワールドサポーターは「オランダ郵便番号くじ」です。